

# わかっこだより

## 平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

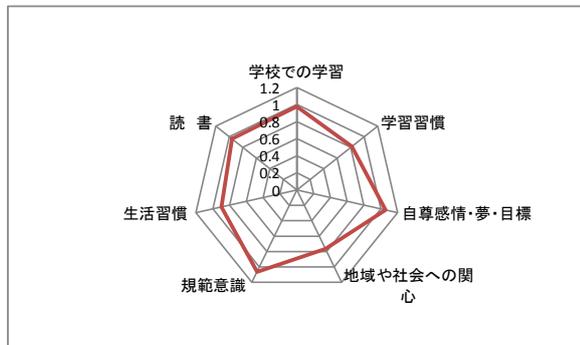
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均正答率を下回っていましたが、昨年度よりも全国平均正答率に近付いてきています。</li> <li>書く力を問う問題に課題があるため、日々の学習の中で書くことを習慣化する必要があります。</li> </ul>	下回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均正答率を下回っており、昨年度と同程度です。</li> <li>話すこと、聞くことについての問題に課題があり、目的や意図に応じて話すことを習慣化する必要があります。</li> </ul>	下回っている
算数A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均正答率を下回っており、昨年度と同程度です。</li> <li>「数と計算」領域は比較的よくできています。</li> <li>「量と測定」「図形」領域に課題があるため、補充学習を行う必要があります。</li> </ul>	下回っている
算数B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均正答率を下回っており、昨年度と同程度です。</li> <li>A問題と同様に「量と測定」「図形」領域に課題があるため、補充学習を行う必要があります。</li> <li>長い文章を読んで問題を解いたり、必要な情報を選択して問題を解いたりすることに慣れる必要があります。</li> </ul>	下回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

- 家庭学習を60分以上する児童の割合が少ない状況です。宿題については毎日することができているが、自主的な家庭学習の取組については課題があります。家庭学習の具体例を提示して、目標をもって取り組むようにしていきます。
- ゲーム(テレビ・パソコン・スマホを使用)をする時間が2時間以上3時間未満の児童の割合が高い状況です。全国と比較して非常に高い割合です。家庭での生活習慣について啓発していく必要があります。
- 自分にはよいところがあると感じている児童が増えています。児童の自尊感情が高まってきていることが分かります。
- 学校のきまりを守って生活している児童の割合が高くなっています。児童の学校生活での規範意識が向上してきていることが分かります。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 主題研修を通して、児童一人一人に適切な即時評価・即時指導をすることができるようにするとともに、毎時間の学習において「話し合う活動」を取り入れるようにしています。
- 朝の学習の時間を工夫しています。月曜日は国語(低学年はMIM、中高学年は当該学年の単元の復習)、火曜日は算数(1年生は当該学年の内容、2~6年生は前学年までの復習)、水曜日は国語(1年生は視写、2~6年生は全学年までの復習)、木曜日は読書または虹の会(ボランティア)による読み聞かせ、金曜日は算数(低学年は計算を中心に、中高学年は当該学年の単元の復習)をする時間として学校全体で計画的・組織的に実施しています。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習は、学年の発達段階に応じて学年プラス10分(1年生は20分、2年生は30分、3年生は40分、4年生は50分、5年生は60分、6年生は70分)を目安とし、宿題のみではなく自主学習にも自主的に取り組むことができるようにしていきます。その際、家庭学習チャレンジハンドブックを活用したり、家庭学習の見本を提示したりすることで、児童が目標をもって家庭学習をすることができるようにします。
- 調査からは、ゲームをする時間が長い(2時間以上、中には4時間を超す児童もいます)児童が多いことが分かりました。児童に生活習慣を意識させるために、家庭生活ががんばりカードを活用して保護者と協力して生活習慣を見直すことができるようにします。